

### Q1: 天国ってどんなところ？

天国は究極のパラダイスです。死後の世界は未知の領域なので、多くの人にとって信じるのが難しいかもしれません。しかし、天国は現実にある場所であり、その様子も聖書に詳しく記されています。イエスは、天に戻られる前に次のように言われました。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。…あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。」(ヨハネ 14:2,3)

天国は、息をのむほど美しく、驚くほど広大で、言葉では言い尽くせないほどです。中心都市である天の都は、縦、横、高さがそれぞれ2220キロもあり、都の大通りは金でできているとあります。青草の茂る広い公園には命の川が優雅に流れ、そこでは子供たちが楽しそうに動物たちと戯れています。弱肉強食の時代は終わり、動物も人間も互いにコミュニケーションできるのです。

もはや死も、痛みも、恐れも、涙も、病気もない世界、喜びに満ちた世界です。死によって一時的に離れ離れになってしまったとしても、天国でいずれ、愛する人やペットと再び一緒になり、永遠に共に暮らせます。まさにこの聖書の言葉のように。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」。(1コリント 2:9)

### Q2: 他の宗教を信じていたり、イエスのことを知らずに死んだ人はどうなるのですか？

神は愛であり、すべての人を愛しています。その神が、福音や救われる方法を聞くチャンスのなかった人を、ただ地獄に送るはずはありません。聖書を詳しく研究してみると、天国や霊の世界には様々な場所があるのがわかります。神は憐れみを持たれ、人々に何度もチャンスを与えられるのです。もし地上でイエスのことを知るチャンスがなかったのであれば、すぐに天国の都には入れないかもしれませんが、来世において救われるチャンスがもらえることでしょう。

### Q3: 地獄って何ですか？

地獄という言葉を考える時、普通、火の池(ゲヘナ)のことを考え、硫黄と火の燃える所を思い浮かべます。聖書では、地獄はキリストを拒絶した邪悪で呪われた者たちが拷問に苦しむ所として表現されています。(マルコ 9:43-44 及び黙示録 21:8、14:9-11) そのような場所も確かに存在するようです。

しかし興味深いことに、新約聖書の中に、地獄や黄泉という言葉が22回出て来ますが、その中で、原文のギリシャ語の「ゲヘナ」、すなわち火の池にあたるものは11回だけです。残りの11回は、原文では「ヘーデス」となっており、その意味は「目に見えない状態、目に見えない世界」です。つまり、火の池ではありません。また、旧約聖書で陰府と訳されている「シェオール」も、「目に見えない状態」とか、霊の世界を意味しています。聖書に出てくる「墓」という言葉の内、34回は死んだ人が埋葬される墓を意味していますが、残りの31回はヘブル語の原文で「シェオール」つまり、「目に見えない世界」を意味しています。

このように、翻訳が誤解を招いて、クリスチャン以外は一人残らず地獄に行くようなイメージを受けてしまいがちですが、救われていない人の多くは、まずヘーデス、すなわち、目に見えない世界へ行くのです。

## Q4: どんな人が地獄に行くのですか？

悪いことをしたら地獄行き、と考える人が多くいますが、そうではありません。聖書は、すべての人が罪を犯すので、誰も今のままでは天国に行けないことを説明しています。だからこそ、イエスが来て、私たちの罪のあがないのために死んで下さったのです。それでは、どんな人が火の池のような地獄に行くのでしょうか？ それは、何度チャンスを与えられても悔い改めず、神の愛とイエスを拒絶し、この上もなく墮落し、悪魔自身のように神に挑戦し反抗する人です。

## 天のふるさとを求めて

米宇宙開発の先駆者である有名なフォン・ブラウン博士は、死後の人生の存在を信じるに十分な「科学的根拠」があると言った。博士はこう説明している。「何の形跡も残さず消滅する物体は存在しないことを、科学は発見している。物体が消滅してしまうことはない。ただ、(何らかの形やエネルギーに)変換するのみだ。もし神が、宇宙のすみずみにまでこの基本的原理を働かせているなら、神ご自身が造られた人間の魂にもその原理が働いているとは考えられないだろうか。私はそう思う。」  
ワーナー・フォン・ブラウン

死は光を消したりはしない。夜が明けたので、ランプの火を消すだけである。  
ラビンドラナート・タゴール  
(インドの詩人、ノーベル文学賞受賞者)

あなたの体は本物のあなたではない。体は魂が宿る殻にすぎない。本物のあなたは霊であり、それは永遠に生き続ける。  
デイビッド・ブランド・バーグ

わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。  
イエスの言葉、ヨハネによる福音書 11:25, 26

罪や犯罪、不法、流血、病気、死、悲しみ、苦しみのない国はあるだろうか？ これらは世界の至る所で見られるが、天国には存在しない。神の国には、お互いを隔てる壁はない。人種の壁もない。戦争がないので兵士もいない。犯罪や罪がないので警察官もいない。墓もないので葬儀屋もいない。病原菌や熱や病気もないので医者もいない。闇がないので泥棒もいない。別居も、家庭崩壊、アルコール中毒、刑務所や病院もなく、目や耳や口の不自由な人もそこではいやされ、こじきや貧困者もいない。こんな素晴らしい願ってもない国を求めない者などいるだろうか。理想の国だ！ あなたは天国を恋しく思わないか。  
H・ロッキヤー

イエスは、「あなたがたのために、場所を用意しに行く」と言われた。(ヨハネによる福音書 14:2) 私たちは、天国に行った時に見知らぬ訪問者扱いされることはない。私たちの到着は予定されており、場所も用意されているのだ。私たちは心待ちにされている。  
CLA

人生は旅。天国はその目的地。人生レースに没頭するあまり、自分が走っているコースはただの過程であって、それ自体がゴールではないことを忘れないように。  
マリア・フォンテーン

(これらの言葉は、「かいま見る天の世界」からの抜粋です。ご注文はアクティベート ジャパンまで。)